



尼崎市立小国中学校 第2学年

社 会 科 通 信

# なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 1 - 1/2

## ノートの「とり方」について

### ノートの評価基準（５段階）

- ノートに工夫（内容がわかりやすいように、構造化されている等）が見られ、自分で調べたことが整理されている。
- 工夫してノートをまとめているが、自分で調べたことが部分的にしか整理されていない。
- 板書を中心にまとめているが、自分で調べたことが整理されていない。
- 内容的（板書など）に欠落があるか、指示された学習（テスト直しなど）をしていない。かつ、自分で調べたことが整理されていない。
- 内容的（板書など）にかなりの欠落と、構造的な混乱があり、指示された学習がされていない。かつ、自分で調べたことが整理されていない。

方）・「書き方」を変えるだけでも、学習の能率は大きく違ってきますし、学習を楽しくできるようになります。

一度した学習を、次の学習する際に役立てるために「とる」のが、ノートの一つの大きな意味です。ところが、ほとんどの人のノートは、とりっぱなし、二度と見ないノートにしかありません。一度がんばったことが、次に役立つようにしなければ、その努力はもったいないものです。

### ノートをつくる際の基本的な事項

- 学習した内容が、一目でわかるようなノート。
- 芸術品をつくる必要はない。自分が後で見ても、読む気になるノートであれば良い。したがって、できる限りスピードを上げてノートをとること。
- 自分で、テスト勉強するためなどに利用するときに、問題集の代わりをすることができるようなノートが、効率的である。

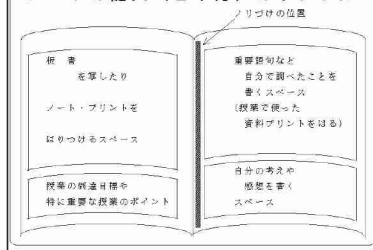
授業の中で、ノートの「とり方」・「書き方」について、説明をしてきました。しかし、まだ、ノートの「とり方」が、受動的でない人がほとんどです。

ノートの「とり

そこで、社会科通信でもう一度、主なことだけを具体的に説明しておきます。

- 見開き１ページ（ふつうなら２ページになるところを１ページ分として利用する）で使い、１つの小單元しか書かないノートにすること。  
これは、実際には（通常）授業１時間分に当たります。
- 行をつめて書くのではなく、１つの文章ごとに、１行づつあけること。こうすることによって、非常に見やすいノートになります。
- 専門用語で重要な語句には、色をつけるなどの工夫をすること。
- 「板書」（先生が黒板に書いたこと）を写すところと、自分で調べたり、自分が考えたことを書くスペース（位置）などを、きっちりと区別しておくこと。  
たとえば、左の方には「板書」、右上は、自分で調べたこと、右下は自分が感じたこと、考えたこと。というように。
- 特に、「板書」では、専門用語しか先生は書かないことが多い。そこで、右に、その専門用語の意味を調べて、ノートにしておく。  
こうすれば、テスト前には、ノートが完全に「練習問題集」を兼ねることができ（右だけを見て、専門用語の関係や事項の因果関係を考えたり、左だけを見て、専門用語の意味が言えるかどうかを練習できるからです）。
- プリントをはる位置は、何も書いていないページ（スペース）であること。  
プリントをめくらなければ、ノートの内容が見えないようでは、見開き１ページにしている意味が全くありません。自分が読みたい本の上に、プリントをはりつける人はいないでしょう。それと同じなのです。  
\*\* ノートにプリントをはりつける場合は、たてにノリをつけてノート  
のページをめくりやすくすること。 \*\*
- プリントを重ねて、はらないこと。上のプリントをめくらないと、次のプリントを見ることができないようでは、下のプリントを見ることは、ほとんどなくなります。  
ルーズ・リーフでは、袋にプリントを重ねて入れないこと。

### ノートの記入（とり方）のサンプル





尼崎市立小倉中学校 第2学年

社会科通信

# なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 1 - 2/2

ここに紹介するのは  
昨年の2年生  
(現在の3年生)  
のノートで評価がAとなったものの一部です。

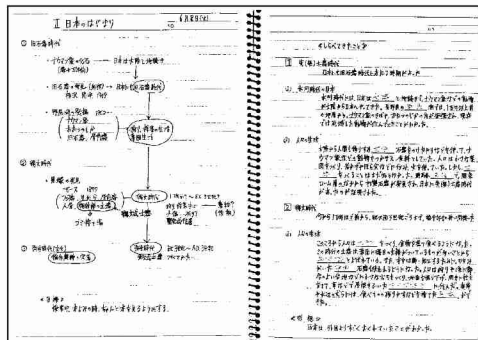
ここに紹介しきれないのが残念ですが、自分の感想や調べたこと

をていねいに、書き入れて仕上げられたノートは他にもたくさんあります。

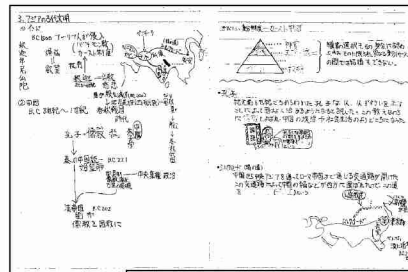
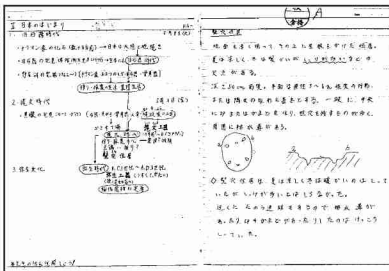
今後のノートづくりの参考にしてください。

旧2年1組

Mさんのノート →



↑旧2年1組 Tさんのノート



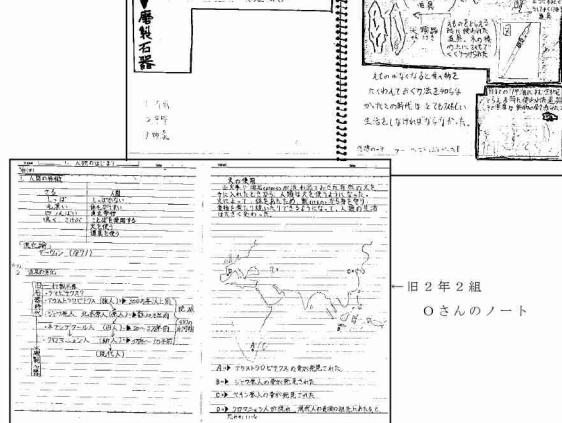
旧2年1組

W君のノート

旧2年2組

Mさんの

ノート →



旧2年2組

Oさんのノート